

# 町内の会社 紹介します

## 大島電機株式会社

所在地 橋 場

代表取締役社長 大島政雄氏

大島電機株式会社は、主にステレオ・テレビなどの電機部品を組み立てている会社です。

本社は東京にあり、昭和五十五年六月に光町第一工場が、五十八年九月には第二工場が建てられました。第一工場では、端子板といわれるステレオ用の部



▲厳しい検査が行なわれる  
▲流れ作業による組み立て

品や、ビデオ・テレビのチューナーなどの組み立てが行なわれ、第二工場では、ピンジャックといわれるやはりステレオ用部品の組み立てが行なわれています。材料はすべて本社から運ばれ、組み立てが終了し、製品となった物を直接メーカーへ送ります。細かい仕事だけに、不良品が出ないように細心の注意がはられ、厳しい検査をしたうえで製品は出荷されます。第二工場長伊藤さんのお話。信用が第一なので、良い品を納期内に納めることに努力しています。

# 町長 ひとりごと

齊藤 讓

風

『誰か 風をみたでしょう  
僕も あなたもみやしない  
けれど 木の葉をふるわせて  
風は 通りぬけていく』

これは、「風」という唱歌の一節である。ところで、歳月も、この風のように、誰もその姿をみた人はいない。けれど、辺りの風情や、人々の心、姿に微妙な変化をそと残して、歳月は通りすぎていくのである。生きとし生けるものは、みなこの歳月という時の流れの中で、泡沫のように生まれ、育ち、そして果てていく宿命にある。現代社会を貫流する時の流れは、驚くほど速く、しかも、年々歳々その速度も増しているような感じさえする。しかし、それは目まぐるしく変化する現代社会が、自らつくり出した錯覚に外ならぬ。なぜならば、歳月の流れは、悠然として不変である。

今ここにまた、年の瀬を迎え、昭和六十二年が、森羅万象ごとごとくこの流れにのせて、静かに過ぎ去ろうとしている。去りゆく流れを、しばらく追ってみよう。まず、国際的には、ペルシヤ湾の緊張に世界中が神経を尖らせ、また、米ソ両超大国の核兵器削減交渉の成行きに期待と不安をよせ、あらためて世界平和実現の必要性が問われると共に、その難しさが露呈した一年であった。国際経済の面では、米国が減税政策の失敗から、大幅な財政赤字を抱え、更に企業は、国際競争力を失い、貿易収支でも巨額の赤字を出すなど、かつて世界経済を凌駕した強い米国から一転して債務国へと転落し、過去の威信は大きく崩れつつある。その結果が、円高、ドル安、株価の暴落といった混乱を招き、国際金融市場は大荒れの状態が長く続いている。日本経済の強さと米国の衰退が際立った一年でもあった。一方、国内的には、戦後政治の総決算を旗印に、行政改革と国際外交に大きな成果を挙げた中曽根内閣が退陣し、竹下内閣が誕生した。中曽根総理は、歴代の内閣が果し得なかつた国鉄をはじめ各種公社、公団等の民営化を断行するなど行政改革を強力に推進する一方で、経済大国を背にして、国際政治の榎舞台で積極的な活動を展開し、地味で下手だと評された日本の外交に、新極面を切開く鮮やかな手腕を發揮した。更に、後継者の選出に

あつたのは、自らの指名により竹下総裁を決するという、ドラマチックな演出であった。とに角、政局が転換する一年であった。他面では、利根川博士のノーベル賞受賞という、日本人が鼻を高くしたくなる榮譽が生まれた傍で、多くの映画ファン的心を魅了した天下の大スター石原裕次郎、鶴田浩二らが亡くなっていった。悲喜こもこも、氾濫する出来事が雑誌の活字や、テレビ、ラジオの電波に踊った一年でもあった。わが光町では、四月の地方統一選挙で、新たに十八名の町議会議員が誕生し、健全で、前向きな政治活動を期待する住民の声が集められた一年であった。その一方で、光町の誕生と、発展に大きな役割を果された越川伸先生、光楽園老人ホームの建設と発展に半生を捧げた千原興樂氏、学校給食センターの改善に情熱を傾けた行方敏逸前所長等が、惜しまれつつ鬼籍に入った悲しい一年でもあった。私にとっては、町づくりの方向が、ぼんやりではあるが見えてきた反面、舵取りの難しさ、職責の重さを、いやというほど知らされた一年であった。さて、皆さんは、どうであつたでしょうか。明六十二年という歳月は、どのような流れを私達に運んでくるのかは誰もわからない。しかし、いかなる流れになるにせよ、己を見失うことなくしっかりと、流れに棹を差してゆかなければならない。